

(3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

ネットワーク型支援体制による環境整備支援

- ・地域ニーズをふまえた専門的・面的支援

令和2年度の成果目標

- ・地域循環共生圏構築に向けた事業化促進（連絡会1回、意見交換会）
- ・PF活動団体を核としたネットワーク形成（セミナー1回、マッチングの場づくり）

①地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業

ア、環境整備支援の概要

九州地方環境事務所、(公財)地方経済総合研究所とともに地方支援事務局を構成し、専門的見地から指導・助言する各地の専門団体や有識者と連携し地域ニーズをふまえた支援を行った。また具体的な環境整備支援においては、プラットフォーム活動団体（以下、PF活動団体）へのヒアリングを行い、支援計画を策定の上、取組んだ。

九州・沖縄地方におけるプラットフォーム活動団体

	プラットフォーム活動団体名	活動地域	備考
1	鹿島市ラムサール条約推進協議会	佐賀県鹿島市	継続
2	小国町	熊本県小国町	継続
3	熊本県・南阿蘇村	熊本県南阿蘇村	継続
4	北九州環境ビジネス推進会 (KICS)	福岡県北九州市	新規
5	一般社団法人 MIT	長崎県対馬市	新規

沖縄奄美自然環境事務所管内のPF活動団体

1	徳之島地区自然保護協議会	鹿児島県大島郡徳之島一円	継続
2	宮古島市	沖縄県宮古島市	継続、支援チーム派遣対象
3	国頭村	沖縄県国頭郡国頭村	継続

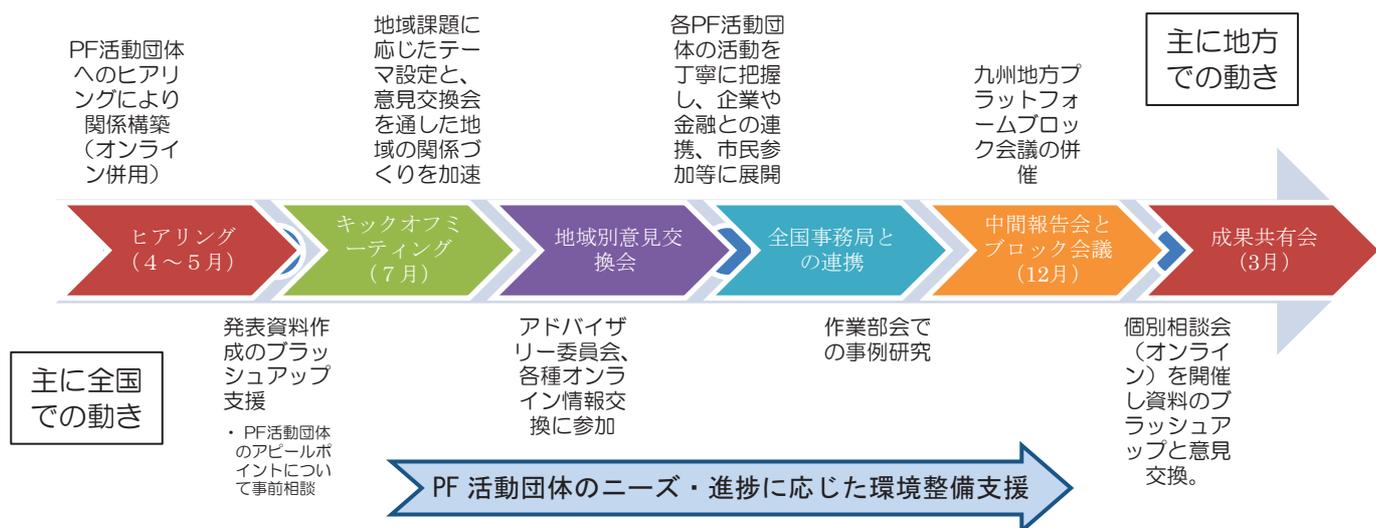
「環境整備」の考え方

地域循環共生圏の創造に向けて取り組むPF活動団体が行う地域人材（キーパーソン）の発掘、地域の核となるステークホルダー（以下：SH）の組織化、事業計画策定に向けた構想の具体化を総称する主体的な活動。

「環境整備支援」の展開

PF活動団体が取組む環境整備の円滑な推進に向けた中間支援活動を環境整備支援と位置づけ、広域的な連携づくりを促進させた。その一環として、地域SHを交えた意見交換会の開催を支援し、PF団体が策定する地域循環共生圏構築に向けた事業計画をブラッシュアップし、活動内容に関する専門家による助言など必要な支援・情報提供を行った。

環境整備支援ワークフロー



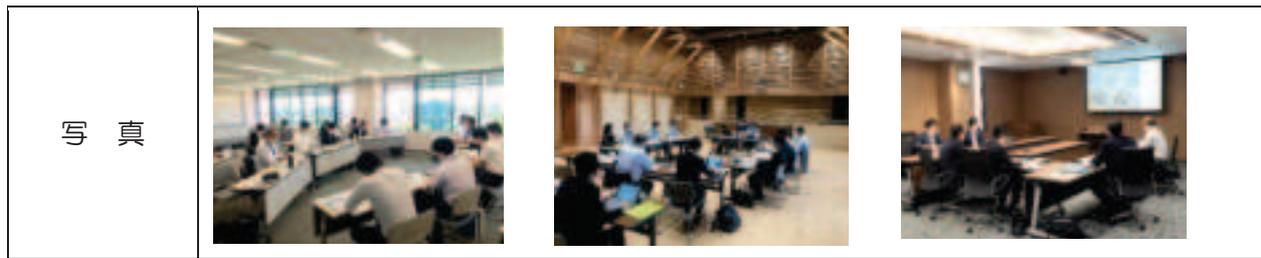
イ、PF 活動団体へのヒアリング及びキックオフ情報交換会等の開催支援

PF 活動団体への環境整備支援にあたり、活動計画やステークホルダーの巻き込み、事業化の観点からヒアリングを行った。

なお、ヒアリングの実施にあたっては、現地訪問及び、コロナ禍により現地訪問不可のPF においては、オンラインツールを活用するなど、機動的な対応を行った。

1) ヒアリングの実施

行事名	地域循環共生圏 PF 事業活動団体ヒアリング
開催日等 (場所)	令和2年 5月13日(水) 熊本県・南阿蘇(熊本県庁) 5月13日(水) 小国町(小国町町民センター) 5月14日(木) 北九州環境ビジネス推進会(オンライン) 5月14日(木) 一般社団法人 MIT(オンライン) 5月26日(火) 鹿島市ラムサール条約推進協議会(オンライン)
目的	①事業の目的やゴール、進め方、登場人物と役割分担と共有 ②今年度目標と達成するための手段の具体化(5W2Hの把握) ③共生圏を構築する上での、現状認識している課題やボトルネックの整理整理 ④事務所・EPOによる環境整備支援のポイント抽出、具体的支援ニーズの把握
概要	九州地方支援事務局より、今年度の地域循環共生圏プラットフォーム事業の概要とスケジュールの説明を行った。 地域プラットフォーム団体から、今年度の主な取り組み、目指すべきゴールイメージ、ボトルネックなどの共有、質疑応答など。
成果 ・ 検討事項	プラットフォーム活動団体の現状や課題を聴くことが出来、今後の支援策について具体的な方向性を共有することが出来た。 また、ヒアリングをふまえ、全国共通のフォーマットをもとに、各PF活動団体の取組に応じた観点を整理し、九州地方支援事務局としての企画を盛り込んだ支援計画を策定した。 あわせて、全国事務局が開催するキックオフ情報交換会開催に向けて、PF活動団体の発表資料作成に助言等を行い、側面支援した。



2) キックオフ情報交換会（環境省主催）への出席及び開催支援

行事名	キックオフ情報交換会
開催日等 (場所)	令和2年7月2日(木) PF 事業キックオフミーティング出席(オンライン) 7月3日(金) ネットワーキングイベントファシリテーター
目 的	環境省が地域循環共生圏を進める上で本事業において構想するビジョン、方向性を共有するとともに、今年度のPF活動団体の取組内容を発表し、地域内の交流を促すとともに、地域を超えた課題・テーマでの交流も目的とする。
概 要	1日目：地域循環共生圏プラットフォーム事業説明 有識者による講演 INSPIRE 谷中修吾氏 PF活動団体32団体の取組内容の発表・質疑応答 (セッション1～セッション5) 2日目：PF活動団体32団体の取組内容の発表・質疑応答(セッション6～7) ネットワーキングイベント(地域別・テーマ別) ※EPOにてファシリテーター支援
成 果 ・ 検討事項	環境計画課ならびに全国事務局による事業説明、有識者による講演等とおして、PF活動団体の取組前提となる方向性を共有することが出来た。 取組内容発表では、九州各地域の取組がアピールされ、他地域の取組みを共有することが出来た。2日間に及ぶオンラインでの長時間参加方式については、運営方法等について提案していきたい。 ネットワーキングイベントでは、PF活動団体同士の初顔合わせの場ともなり、限られた時間ではあったが、相互交流の場となった。 テーマ別セッションでは、森づくりやエコツアーなどテーマによってグループ分けされたPF活動団体ごとの課題共有や、継続団体から新規団体へ活動アドバイスなどもあり、有意義な場となった。
写 真	

ウ、PF 活動団体に対する環境整備支援（意見交換会企画運営を含む）

各 PF のニーズをふまえ、環境整備支援に取組み、意見交換会・ワークショップを下記のような考え方をもとに、PF 活動団体と連携し開催した。

【鹿島市ラムサール条約推進協議会】

PF 活動団体の特徴	鹿島市ラムサール条約推進協議会は、すでに多様な主体で構成されており、「環境と産業の調和」から「有明海再生」に向けて、肥前鹿島干潟基金増額プロジェクトやエコツアーの開催など、鹿島干潟の「保全・再生」「ワイズユース」「交流・学習」に主眼を置いて活動している。
環境整備支援方針	保全活動を支える基金増額に向けたプロジェクトの整理と事業フローによる論点の抽出 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを設定した意見交換会の共同開催 ・環境整備の成果創出に向けた助言

行事名	鹿島市ラムサール条約推進協議会意見交換会
開催日等	日時：令和2年9月3日（木） 場所：鹿島市役所2階会議室
目的	PF 団体と地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行う。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・主旨説明（九州地方環境事務所） ・鹿島市ラムサール条約推進協議会の活動紹介（鹿島市ラムサール推進室） ・意見交換 <ol style="list-style-type: none"> 1. ラムサールブランド認証品の組合せ販売のアイデアについて 2. 干潟基金増額プロジェクトの新しいアイデアについて 3. ステークホルダーのみなさまの活動とのコラボレーションについて <p>出席者 18 名（鹿島ステークホルダー11 名、支援事務局 7 名・内 WEB1 名）</p>
成果 ・ 検討事項	<p>【把握された課題】 住民へ訴える際に、「干潟保全の必要性」の意識不足をどう補うのか。</p> <p>【今後の取組についての意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラムサール認証品の数を増やす。 ・セット販売などで、ラムサール認証品の販売数・販売金額を伸ばす。 ・道の駅などで、「ラムサール認証品」の売り場を目立つように改善する。 ・「干潟保全」「ラムサール条約」「ラムサール認証品」など基本的な事項についての啓発をこれまでも行っているが、さらなる啓発の推進・工夫（宿泊施設との連携、マスコミの活用、イベントや体験型観光と環境保全活動の融合など）が必要。 ・参加した幅広い SH に、「地域循環共生圏」の考え方についてインプットすることが出来た。 ・意見交換では、行政による多面的な干潟保全に対して、事業者レベルでは直接利益に結びつきにくい「干潟保全」自体に関心が薄いことが浮き彫りになった。 ・ラムサール認証品の認証メリットが伝わりにくいなどの課題解決に取り組み、新たな認証品セットの開発や、体験との組合せについて提案があった。 ・渡り鳥に食害被害を受けている漁業者の視点からは、野鳥の保護をしている行政・協議会に対して緊張関係が有ることもわかった。 ・課題解決に向けて企業との連携や協力者増への呼びかけを行うことが合意形成された。

写 真	
-----	--

その他取組んだ環境整備支援

金融機関意見交換会	<p>12月17日(木)金融機関との連携について相談あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿島市が金融機関各6行、ならびに鹿島商工会議所と締結する「しごと・ものづくり、ひとづくり、まちづくり」の好循環を実現するため、の三者連携協定の定例会議の席で、某銀行よりSDGsの取組に特化した連携協定を結べないかとの打診があり相談があった。 ・九州地方環境事務所へ経緯を説明、進め方についてアドバイスいただく。 ・地方経済総合研究所へも、パートナーシップ制度等について問合せ。 <p>1月28日(木)金融機関連携協定説明会補助(オンライン)</p> <p>※4月に「有明海の環境保全を通じたSDGsの目標達成」の実現に向けた連携協定を鹿島市近郊の金融機関と締結予定。</p>
打合せ等	<p>7月21日(火)プラットフォーム事業進捗打合せ(鹿島市役所)</p> <p>7月30日(木)意見交換会開催に関する打合せ(EPO)</p> <p>8月21日(金)意見交換会資料・ビジョンシート作成助言</p> <p>9月17日(金)大阪ガス地域エネルギービジネス紹介(九州地方環境事務所)</p> <p>10月12日(月)地域循環共生圏フォーラム事前打合せ(オンライン)</p> <p>10月26日(金)地域循環共生圏フォーラム登壇補助(オンライン)</p> <p>11月26日(木)鳥獣被害対策企業とのオンラインミーティング補助</p> <p>12月16日(水)ラムサール米ふるさと納税ネット対策打合せ補助</p> <p>12月17日(木)金融機関へのアプローチ相談</p> <p>1月24日(日)ラムサール5周年記念シンポジウム参加(オンライン)</p> <p>1月28日(木)金融機関連携協定説明会補助(オンライン)</p>

【小国町】

PF 活動団体の特徴	九州ツーリズム大学や北里柴三郎の理念（交流と学習）が受け継がれ、生物多様性の保全活動や、次世代を担う子どもたちのために環境学習など持続可能な取組を続けている。SDGs 未来都市に指定されるなど 2030 年の小国のあるべき姿として、地熱と森林資源を活かした、持続可能な町を目指している。
環境整備支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・シュタットベルケ構想を掘り下げ、小国ならではの事業化に向けたスキームとして整理する。 ・テーマを設定した意見交換会の共同開催 ・環境整備の成果創出に向けた助言 <p><今後必要な支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発行為と国立公園域の調整、地熱の権利等の整理諮専門部署からの助言

行事名	小国町意見交換会
開催日等	日時：令和 2 年 10 月 13 日（火） 場所：小国町町民センター
場 所	小国町町民センター
目 的	PF 団体と地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行う。
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・主旨説明（九州地方環境事務所） ・小国町の活動紹介（小国町） ・意見交換 <p><テーマ>ツーリズムによる SDGs の普及啓発について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小国の魅力を発信するツーリズムについて 2. 小国の観光・ツーリズムの具体的な商品化について 3. まとめ <p>出席者 32 名（小国町ステークホルダー 20 名、支援事務局 12 名・内 WEB2 名）</p>
成 果 ・ 検討事項	<p>町の課題意識 小国町では、木の駅プロジェクト、地熱木材乾燥施設、小中学校での教育（ESD）、地域新電力会社の設立、金融機関との連携など多岐に取組んでいる。また、これらを包摂する SDGs 未来都市として、各所からの視察対応を行っているが、職員が忙殺される一方で、町内に十分な視察費や宿泊費・飲食面での経済効果が限られている。</p> <p>【把握された課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小国町は地域資源も多く、発信もしているが、統一した情報が無いため、町外の人々が小国町を訪れようとした際に、どの資料を見て良いのか迷ってしまう。 ・小国町は「小国を知るための媒体」が多すぎて、情報価値が薄まってしまっている。 ・参加者からは、魅力的な内容のツアーなどがあるが、継続して取組まれていない ・ツーリズム以外の事業のタネの進捗状況の見える化、情報共有が必要。 ・小国町庁内で、様々な新しい企画や事業が提案されるが、長続きしない。 <p>【今後の取組についての意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各課や各団体で発信している情報の統一化が必要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の先進事例の共有（カカオ豆は石垣島や小笠原諸島、グリーンモビリティは大分県など） ・「自分が何かしら地域のために貢献できた」という体験が重要であり、社会貢献のエッセンスを含んだ事業にしていくことが大切である。 ・小国の自然だけでなく、歴史や文化にフォーカスしたツーリズムの開発や、十分に課金できるシステム構築の必要性が共有された。
写 真	

その他取組んだ環境整備支援

フォーラムの企画助言	11月～12月 SDGs 地域連携フォーラム企画助言 オンライン配信業者について紹介など 1月29日(金)SDGs 地域連携フォーラムオンライン
打合せ等	7月22日(水)PF 事業進捗状況、豪雨災害状況確認（電話） 8月26日(水)意見交換開催に関する打合せ（EPO）

【熊本県・南阿蘇村】

PF 活動団体の特徴	畜産農家の高齢化や担い手不足に加え、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震により阿蘇地方は甚大な被害を受け、野焼きを中止せざるを得ない牧野もあり、草原維持管理の継続が困難になってきている。南阿蘇の持つ自然環境や再生可能エネルギーなどのポテンシャルを活かし、草原維持・再生、地域農業活性化、観光振興、新たな事業の創出に取り組み、地域循環共生圏の構築に取り組んでいる。
環境整備支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度事業のタネとして掲げられた取組を精査し、今年度注力する事業化支援（特に草原再生に資するもの）を行う。 ・草原を利用したアクティビティや草原の資源化が課題 ・テーマ設定した意見交換会の共同開催 ・環境整備の成果創出に向けた助言

行事名	南阿蘇村第 1 回全体会・意見交換会
開催日等	日時：令和 2 年 6 月 25 日（木） 場所：南阿蘇村役場 2 階大会議室
目的	前年度事業成果及び今年度の取組み報告と共に、PF 団体と地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行う。 テーマ別に分かれての意見交換
概要	九州地方環境事務所による「地域循環共生圏」の趣旨説明 1. 全体会 前年度事業成果及び取組内容の説明。 2. 分野別検討会 ステークホルダーを交えた意見交換。 ①草原事業分野 ②新たなビジネス創出 EPO にて分野別①草原事業グループワークのファシリテーターを務めた。 3. まとめ 出席者 47 名（南阿蘇ステークホルダー 41 名、支援事務局 6 名）
成果・検討事項	【把握された課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアはたくさん出るが、実行に移す主体が不明確。 ・ステークホルダーが主体性を発揮する仕組みが弱い。 ①草原分野では、修学旅行で野焼き見学、災害教育、あか牛と合わせて羊の放牧、草原と観光業の連携、阿蘇の茅材の活用などの提案があった。 ②新たな事業分野では、水前寺のり、黒川やまめ、木質バイオマス、南阿蘇新電力などそれぞれの専門分野ごとの言及が必要であるとの確認があった。 【今後の取組についての意見】 <ul style="list-style-type: none"> ・事業の展開や草原活用に向けた、熊本県・南阿蘇村における補助事業を検討している。 ・事業主体ごと（SH 同士の共同企画も含む）の企画案を作成することで、取組みがより具体化される。
写真	

その他取組んだ環境整備支援

<p>全体会への参加、モデル事業への助言他</p>	<p>全体会・事業別検討会、モデル事業検討助言 意見交換会・アンケートによるSHの意見集約をふまえ熊本県・南阿蘇村共同による「地域循環共生圏づくりプラットフォーム支援事業（モデル事業）」がSHを対象に公募（10月公募、年度内報告）された。 活動資金として活用できることから、7団体8案件の応募があり、5団体5案件が採択された。</p>
<p>打合せ等</p>	<p>6月16日(火)PF事業進捗状況確認（熊本県庁） 9月10日(木)進捗状況確認（電話・メール） 10月8日(木)第2回全体会、モデル事業説明会出席 11月～12月モデル事業への助言（随時） ※7団体8案件の応募があり、5団体5案件を採択。 1月27日(水)モデル事業中間報告会出席 3月19日(金)モデル事業最終報告会出席</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

【北九州環境ビジネス推進会（KICS）】

PF 活動団体の特徴	北九州エコタウンの整備から 20 年以上が経ち、各リサイクル企業は事業の高度化に向けて個別に取り組んできたが、昨今の脱炭素社会や脱プラスチックを含む循環経済に向けた潮流を踏まえ、「循環経済の概念図」を参考に「明日の北九州の環境産業ビジョン」の策定に向けて「北九州循環経済研究会」での議論を重ねている。
環境整備支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・新規団体ということもあり、早い段階で地域循環共生圏の理念の共有を PF 活動団体側と行い、ビジョン策定へのコミットを強める必要がある。 ・基本的な考え方を共有するための意見交換会の共同開催 ・ステークホルダーの選定助言 ・事業計画策定支援

行事名	北九州環境ビジネス推進意見交換会
開催日等	日時：令和 3 年 10 月 19 日（月） 場所：西日本総合展示場新館 304-305 会議室
目的	PF 団体と地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行う。
概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. 北九州環境ビジネス推進会の取組内容について 3. 意見交換 北九州環境経済ビジョン策定・構想実現に向けて <ol style="list-style-type: none"> ①自然循環について ②社会循環について ③エネルギー循環について 4. 今後の活動予定・スケジュールについて 5. 所感 <p>出席者：30 名（KICS ステークホルダー 22 名／内 WEB 4 名、支援事務局 8 名）</p>
成果 ・ 検討事項	<p>北九州循環経済研究会会員及び参加した SH に、「地域循環共生圏」の考え方についてインプットすることが出来た。</p> <p>【把握された課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT やデジタルを活用した、農業、福祉、環境、企業等とのかけあわせの実現化 ・社会的な評価システムの必要性。（SDGs 評価も含む。） ・KICS 単独の動きではなく、他のプラットフォーム（婦人会など）との連携、ネットワーク構築や市民や事業者の巻き込みも必要。 ・自治体と一体となった構想推進が必要。 <p>【今後の取組についての意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT やデジタルに関する研究者、企業との連携 ・メディアへの取り上げや積極的な情報発信。 ・自治体主導の市民向けワークショップ等を実施して、多様なステークホルダーを巻き込む。 ・北九州市担当部署の政策提言受入れについてのヒアリングを行う。

	意見交換により、自然循環・社会循環・エネルギー循環の取組の中で、動脈産業との連携や、市民の巻き込み、ビジョンと現状のギャップ分析が必要などの新たな課題が明確になった。
写 真	

その他取組んだ環境整備支援

研究会への参加・助言	<p>7月20日(月)現地打合せ、北九州循環経済研究会出席(北九州)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域循環共生圏プラットフォーム事業の骨子の説明 ・研究会において言及してほしいテーマ(社会循環諮)について相談 <p>8月24日(月)第7回北九州循環経済研究会出席(オンライン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会は延期になったが、研究会はオンラインで開催されたため出席。 ・意見交換会に向けてマンダラのバージョンアップや事業のタネの詳細について助言。 <p>9月28日(月)第8回北九州循環経済研究会出席(オンライン)</p> <p>12月7日(月)第9回北九州循環経済研究会出席(オンライン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告に向けた成果物資料確認・助言
打合せ等	<p>6月22日(月)進捗状況確認、進め方打ち合わせ(オンライン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会の持ち方、エコテクノ展について <p>8月5日(水)意見交換会の進め方について協議(オンライン)</p> <p>8月中旬 8/24 予定の意見交換会コロナで延期の連絡あり</p> <p>9月～10月 意見交換会開催に向けての打合せ・助言(随時)</p> <p>10月26日(月)地域循環共生圏フォーラム登壇補助</p>

【一般社団法人 MIT】

PF 活動団体の特徴	<p>対馬の里地里山は、ツシヤママネコを頂点とする貴重な生態系を有する。その中でも、森林面積は約 9 割を占め、森林資源の持続可能な利用による生態系の回復と、多様な森林関連のビジネスによる地域経済の活性化が両立できる島を目指している。</p> <p>活動団体は、地域づくり活動経験者が設立し、島の総合計画策定の委託や子どもたちへの環境教育講師などを務め、地域での認知度・信用度も高く、地元住民と協力して地域づくりに取り組んでいる。</p>
環境整備支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模林業を基軸とした事業化、体制づくりに向けた支援・助言 ・中期的な方向性を見据えた意見交換会の共同開催 ・ステークホルダーの選定助言 ・事業計画策定支援

行事名	対馬森づくり講演会・意見交換会
開催日等	<p>日時：令和 2 年 11 月 11 日(水)</p> <p>場所：上県地区公民館 2 階講堂</p>
目的	<p>専門家による情報提供により森林に関する知識の共有、並びに PF 団体と地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行う。</p>
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演：「対馬における小さな林業を軸とした森づくりの可能性について」 九州大学農学部生物資源環境学科 佐藤宣子教授 ・主旨説明（環境省環境計画課） ・地域循環共生圏プラットフォーム事業の活動紹介（一般社団法人 MIT） ・意見交換 <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域循環共生圏プラットフォーム事業取組内容について <ul style="list-style-type: none"> ・対馬の現状と課題、事業の目的について ・具体的なビジョンとプロジェクト案について ・今後の活動予定スケジュールについて 2. 意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル林・地域のイメージの共有 ・つしまの持続可能な森づくり協議会(仮)について ・ステークホルダーリスト（案）について 3. まとめ <p>出席者：22 名（対馬ステークホルダー 16 人、支援事務局 6 名）</p>
成果 ・ 検討事項	<p>基調講演において小規模林業の可能性・地域潜在力についてインプットがあり、対馬が林業に向いている土地であると同時に、森林が海に与える影響についても論点が提示されるなど、今後の取組指針となる考え方が参加者間で共有出来た。</p> <p>【把握された課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模林業のモデル地域の選定（森林計画を踏まえたもの）。 ・本事業に紐づく個別の事業が多岐にわたるため、個別事業の実現に向けて、ステークホルダーとの緊密な連携が必要。 ・「自伐型林業」という手法・取組自体が議論の中心になり、「どのような森を目指すべきなのか」についての議論も必要。 ・有害鳥獣対策（特にシカ）が対馬の森づくり・里山づくりには欠かせない。 ・対馬市役所林務部門（農林・しいたけ課）としては、小規模林業に対する抵抗感があるように感じられた。 <p>【今後の取組についての意見】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 市有林や、民有林の中で、モデル地区となりえる森の選定が必要。 コンセプトは小規模林業を起点とした「自立と循環の宝のしま」と明確になった。小規模林業の実現や既存の人材を活用した副業・兼業の可能性と、生態系サービスの持続可能な利用を探っていく。 <p>意見交換会では、MIT の対馬の森づくり構想の説明の後、行政の立場や、林業者、漁業者など様々な立場での意見交換、鳥獣害対策についての情報交換があり、最優先事項として、モデル林の選定と、実証実験を行うことが確認された。</p>
写 真	

その他取組んだ環境整備支援

専門家紹介 現地視察他	<p>11月6日(金)九州大学佐藤先生訪問講演のお願い(九州大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏の考え方について説明、意見交換会に於いてステークホルダーへの森林の基礎知識と対馬における小さな林業を軸とした森づくりの可能性について講演を依頼 <p>11月7日(土)先進地視察(八女ファミリー林業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 八女地域で自伐型林業に取り組んでいる江良氏を訪問、管理されている森林を見学、間伐割合についての説明や、「林業は道づくりが9割」というぐらい作業道の入れ方が大切とのことで、実際にバックホーによる道づくりの実演を行ってもらった。対馬での道づくり、自伐型林業に応用できるか検証した。
打合せ等	<p>9月1日(火)意見交換会の開催について吉野氏とのすり合わせ(電話)</p> <p>9月10日(金)進捗状況確認、進め方打合せ(オンライン)</p> <p>10月21日(水)対馬事前環境事務所・MIT 訪問・海ゴミ視察(対馬)</p> <p>10月22日(木)自伐型林業現場視察・皆伐森林視察(対馬)</p> <p>10月30日(金)意見交換会の詳細打合せ(オンライン)</p> <p>11月10日(火)モデル林候補地視察(対馬)</p> 

ウ、九州地方プラットフォームブロック会議（連絡会）の開催（1回）

九州地方のPF 活動団体の取り組み進捗状況、課題の把握を目的として連絡会を開催した。

行事名	九州地方プラットフォームブロック会議
開催日等	日時：令和2年12月8日（火） 場所：熊本城ホール会議室D（熊本市） 出席者：PF 活動団体、支援事務局
目的	九州地方プラットフォーム活動団体が一堂に集い、情報交換と交流によるネットワークの構築と事業へ活用する。
概要	1. 全国事務局による中間報告ヒアリング・セッション参加 2. 九州地方（5団体）の情報交換会 3. 今後のPF 事業の進め方に関する個別相談会
成果 ・ 検討事項	<p>中間報告会の発表時間に合わせて、九州地方のPF 活動団体に参集いただき、中間報告発表と、その後の情報交換会を開催した。全国とのセッションでは、PF 活動団体が課題とする項目（金融機関との連携や企業の巻き込みなど）についての質疑応答も行われた。</p> <p>参加したPF 活動団体からは「活発な意見交換がで有意義な場だった」「定期的に九州の活動団体で情報交換したい」など評価をいただいた</p> <p>また、個別相談会には2団体（対馬・小国）が参加し、対馬 MIT は森づくりについて行政（対馬市）との協力を促進させること、小国町は専門的なツーリズムをどう進展させ、発展形についての検討を進めるなど、取組状況に応じた課題を地方医務所とも共有し論点整理できた。</p> <p>一方でコロナウイルス対策は万全を期していたが、「コロナ禍での他地域の方との会議へ参集する不安」も指摘があり、県境を越えた形での企画については引き続き慎重に判断したい。</p>
写真	

エ、成果共有会に向けた対応

1) 進捗ヒアリング

行事名	成果共有会に向けた事前相談会（進捗ヒアリング）
開催日等	令和3年2月19日（金）鹿島市ラムサール条約推進協議会（オンライン） 2月19日（金）小国町（オンライン） 2月22日（月）熊本県・南阿蘇村（オンライン） 2月22日（月）北九州環境ビジネス推進会（オンライン） 2月24日（水）一般社団法人 MIT
目的	成果共有会前に PF 活動団体と九州地方支援事務局との意見交換の場を設けることで、プラットフォームの環境整備活動の一層の充実（成果物のブラッシュアップ）を図る。
概要	成果物（地域版マンガラ・発表資料・事業のタネシート・ステークホルダーリスト・最終報告書・目標シート）の確認、活動内容の進捗確認、資料説明に対するの質疑応答など
成果 ・ 検討事項	成果物（案）を事前に共有いただき、支援事務局として活動内容の進捗確認と、発表資料に盛り込むべき点等をアドバイス、修正の段階を踏まえ、各資料のブラッシュアップが図れたことで、成果共有会当日まで資料修正、振り返りなどの十分な準備を行い、当日を迎えることが出来た。

2) 成果共有会交換会（環境省主催）への出席及び開催支援

行事名	成果共有会交換会
開催日等 （場所）	令和3年3月9日（火）PF 事業成果共有会出席（オンライン） 3月10日（水）マッチングイベントファシリテーター（オンライン）
概要	1日目：PF 活動団体 32 団体の取組内容の発表・質疑応答（セッション1～セッション6） 2日目：PF 活動団体 32 団体の取組内容の発表・質疑応答（セッション7） ネットワーキングイベント（地域別・テーマ別） ※EPO にてファシリテーター支援
成果 ・ 検討事項	各 PF 活動団体報告において、課題内容の近い地域の取組みを大いに参考にすることが出来た。 ネットワーキングイベントでは、九州地方の 5PF 団体の今年度最後の会合になり、振り返りと今後の協力を確認することが出来た。 テーマ別では、資金調達のテーマで、各団体が取り組んできたことの紹介だけでなく、工夫点も共有出来た。また、業務連携パートナーの地方経済総合研究所さんの球磨地域での球磨焼酎 PR 戦略の内容も聴け、有意義な場となった。 しかし、やはりオンラインでの 2 日間に及ぶ長時間視聴方式は、改善の余地あり。
写真	

オ、全国支援事務局等と連携した取組

1) アドバイザリー委員会・作業部会への参加

行事名	プラットフォーム形成アドバイザリー委員会
開催日等 (場所)	9月4日(金)第1回アドバイザリー委員会(オンライン) 10月23日(金)第1回作業部会(オンライン) 11月17日(火)第2回アドバイザリー委員会(オンライン) 12月1日(火)第2回作業部会(オンライン) 3月4日(木)第3回アドバイザリー委員会(オンライン)
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域循環共生圏づくりPF事業の構造についての確認 ・各EPOによる環境整備支援の進捗共有 ・PF事業環境整備支援における現状報告 ・各地方EPOによる環境整備支援の進捗共有 ・令和2年度PF事業の振り返り ・環境整備支援を通じてEPO全体として目指す価値について <p>作業部会における事例紹介 九州の事例について報告を行い、委員やGEOC、各EPOとの意見交換を行った。</p>
成果 ・ 検討事項	<p>各EPOの取組状況の共有があり、環境整備支援での課題についての共有が出来、改善点のヒントが得られた。</p> <p>アドバイザリー委員からは、今年度はコロナ禍で現場が見れていないので、具体的なアドバイスというよりも総論的なアドバイスがあった。</p> <p>オンラインでの意見交換では、十分な温度感を伝えきれず、問題意識の共有や論点形成などの難しさも感じた。</p>

2) 沖縄・奄美支援事務局との情報交換

行事名	プラットフォーム形成作業部会
開催日等 (場所)	<p>令和2年9月1日(火) 沖縄県公衆衛生協会とのオンライン情報交換 9月30日(水) 沖縄奄美自然環境事務所訪問、情報交換 10月1日(木) 琉球大学訪問、沖縄県公衆衛生協会情報交換</p> <p>令和3年2月22日(月)、24日(水) 九州事務局オンライン相談会オブザーブ参加 (沖縄県公衆衛生協会若松氏)</p>
概要	奄美群島・沖縄地域のプラットフォーム活動団体については、沖縄県公衆衛生協会が環境整備支援を行い、適宜情報交換等を行った。
成果 ・ 検討事項	沖縄奄美事務所及び沖縄県公衆衛生協会との意見交換をすることで、九州地方、沖縄奄美地方の取組み内容を共有し、九州・沖縄地区全体の地域循環共生圏への取組みの醸成を図れた。

カ、地域循環共生圏推進ハンドブックの編集・発行

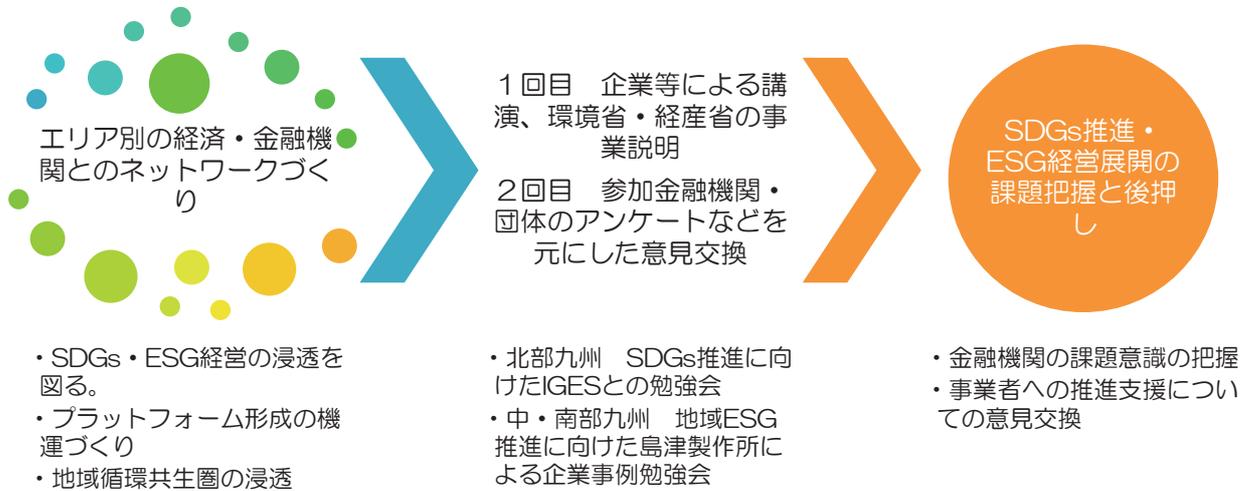
九州・沖縄地域における地域循環共生圏推進に向けた情報発信、事例紹介のツールとしてハンドブックを編集作成した。

A4版 8ページ構成（観音開き）



③地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業 開催支援

九州地方環境事務所が開催する情報交換会に対して、ファシリテーター等を配置し効果的な意見交換・情報交換の促進支援を行った。



1) 北部九州エリア 地域 SDGs 勉強会・意見交換会

行事名	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化 地域 ESG 勉強会
主催等	主催 九州地方環境事務所、九州経済産業局
目的	<p>パリ協定や持続可能な開発のための2030アジェンダ採択などを背景として、環境・社会・企業統治（以後 ESG という）を考慮した資金の流れが世界的にかつ急速に広がっている。</p> <p>環境省では、SDGs/ESG 経営が地域の持続性向上に重要であると位置づけており、取り組む事業者の拡大に向けた普及啓発と検討の場作りを支援している。</p> <p>今回、SDGs/ESG 経営への理解を深めるとともに、同じ志を持つ事業者間のネットワーク構築と連携事業創出を狙いとする、連続した勉強会企画の開催を通じ、地域循環共生圏づくりに貢献する。</p>
第1回概要	<p>◆ 2021年2月10日（水） 15時00分～16時40分</p> <p>◆ プログラム（予定）※時間は前後する場合がございます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 九州地方環境事務所 泉課長 2. 講 演 「地域企業の非財務情報の発信と地域金融機関への期待」 公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES） 北九州アーバンセンター 副センター長 林志浩 氏 3. 事業説明 経済産業省 SDGs 関連事業等紹介 九州経済産業局 企画調査課長 池部 素子 氏 環境省補助事業等説明 九州地方環境事務所 環境対策課長 泉 勇氣 氏 4. 総 括 九州経済産業局 企画調査課長 池部 素子 氏 5. 閉 会

第2回概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 2021年3月16日(火) 14:00~15:30 ◆ オンライン開催 ◆ プログラム 1. 開 会 九州地方環境事務所 泉課長 2. アンケート報告 九州地方環境パートナーシップオフィス 澤 3. 意見交換 ファシリテーター 長崎大学経済学部准教授 山口 純哉先生 4. 総 括 九州経済産業局 企画調査課長 池部 素子 氏 5. 閉 会
参加者	17社(金融10、保険5、行政・公益2)、23名

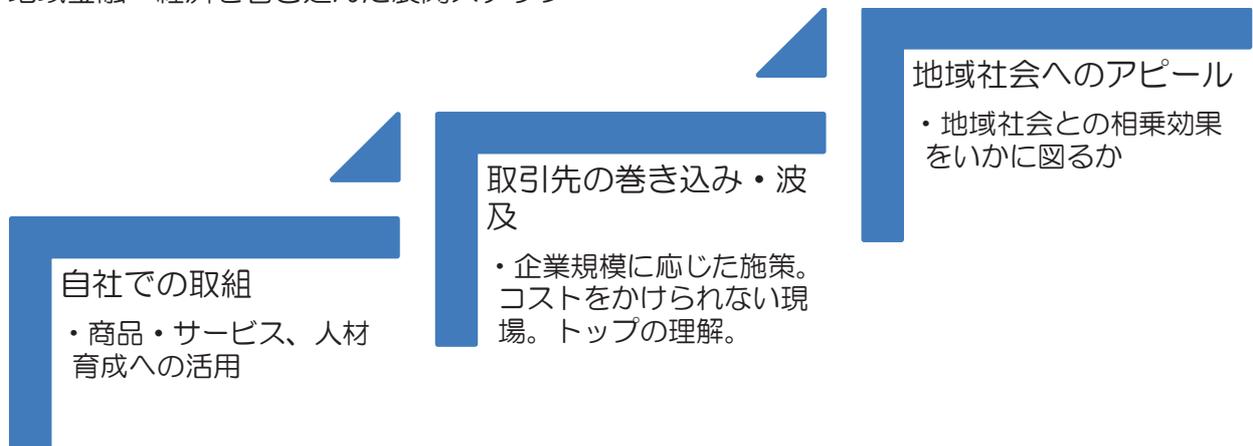
2) 中・南九州エリア 地域 ESG 勉強会・意見交換会

行事名	第1回地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化地域 ESG 勉強会
主催等	主催 九州地方環境事務所、九州経済産業局 共催 九州財務局
目 的	<p>パリ協定や持続可能な開発のための2030アジェンダ採択などを背景として、環境・社会・企業統治(以後 ESG という)を考慮した資金の流れが世界的にかつ急速に広がっている。</p> <p>環境省では、SDGs/ESG 経営が地域の持続性向上に重要であると位置づけており、取り組む事業者の拡大に向けた普及啓発と検討の場作りを支援している。</p> <p>今回、SDGs/ESG 経営への理解を深めるとともに、同じ志を持つ事業者間のネットワーク構築と連携事業創出を狙いとする、連続した勉強会企画の開催を通じ、地域循環共生圏づくりに貢献する。</p>
第1回概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 2021年2月9日(火) 15時00分~16時40分 ◆ オンライン開催 ◆ プログラム 1. 概要説明 2. 開 会 九州地方環境事務所 岡本所長 3. 講 演「地域の価値を高める ESG 経営」 15:05~15:50 株式会社島津製作所 環境経営統括室長 竹内 慎司 様 4. 事業説明 環境省補助事業等説明 16:10~16:30 九州地方環境事務所 環境対策課長 泉 勇氣 氏 経済産業省 SDGs 関連事業等紹介 15:50~16:10 九州経済産業局 企画調査課長 池部 素子 氏 5. 総 括 財務省 九州財務局 財務行政調整官 内田 哲朗 氏 6. 閉 会
第2回概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 2021年3月16日(火) 14:00~15:30 ◆ オンライン開催 ◆ プログラム 1. 開 会 九州地方環境事務所 泉課長 2. アンケート報告 九州地方環境パートナーシップオフィス 澤 3. 意見交換 ファシリテーター 長崎大学経済学部准教授 山口 純哉先生 4. 総 括 九州経済産業局 企画調査課長 池部 素子 氏 5. 閉 会
参加者	12社(金融6、経済団体5、企業1)、24名

3) 成 果・検討事項

<p>獲得された 成果</p>	<p>事前アンケートでは、SDGs 推進・ESG 経営についての関心は高いものの、具体的な施策については企業規模に応じた工夫や助言が必要との認識が把握された。2 回目の勉強会において、コーディネーターの有識者とともに取組の方向性や課題について掘下げ、以下のような課題認識を獲得することができた。</p> <p>○地域循環共生圏推進に向けたさらなる地域ネットワークづくりの必要性。 金融機関単独での取組ではなく、金融機関同士はもとより、自治体や取引先を巻き込んだプラットフォーム形成が有効（北九州ではすでに取組が進んでいる）</p> <p>○地域経済・金融団体・事業者の課題意識をふまえた場の形成ノウハウの獲得 勉強会をとおして各社の課題意識が共有された。金融機関においても、大規模都市銀行と地方銀行、信金・信組それぞれの関係性は異なっており、これらを横断した情報交換が有効であった。</p> <p>○九州地方環境事務所・EPO 九州のネットワーク基盤を強化 勉強会に参加・発表いただいた企業・事業者との関係をさらに強化したネットワークの展開ニーズが把握された。 主催となった九州経済産業局や協力いただいた九州財務局との横断的な機関連携をもとに、地域性、テーマ性をふまえた波及に取組む機運が醸成された。</p>
---------------------	--

地域金融・経済を巻き込んだ展開ステップ



4) 打合せなどの実施状況

打合せ	12月23日 企画打合せ 地方事務所、EPO、地総研にて企画打合せ
	1月13日 企画打合せ 地方事務所、EPO、地総研にて企画打合せ
	1月29日 企画打合せ 地方事務所、EPO、地総研にて企画打合せ 開場下見を行い、オンライン配信対応についても確認した。
	2月10日 ファシリテーター打合せ。有識者を交えて企画について打合せを行った
	3月9日 進行打合せ 関係者をオンラインで接続し意見交換の進め方について打合せを行った。
全国事務局 情報交換会	10月8日 基盤強化事業情報交換セミナー・意見交換（オンライン）
	12月16日 基盤強化事業情報交換セミナー・意見交換（オンライン）